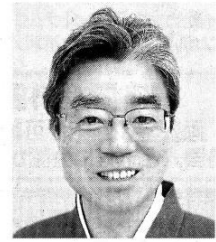


# 朝をひらく

永田 円了  
真国寺住職



心の中にあることが無意識に外に発せられる。人は知らず知らずのうちにこの無意識に左右され、望ましくない結果を生む。必要なのは、無意識内容の意識化なのである。

昨今の政治家の失言は目に余るものがある。外に出た言葉に誤りがあったのではなく、言葉の元にある思いに誤りがあったと自覚すべきであろう。それは失言ではなく、失言だったのである。

私の講座でのこと、この「失言」が起こった。講座後十数人の参加者が本堂で輪になって一人ひとり感想を述べ合う。ある

## 失言は「失思」

ご夫婦に順番が回った。ご主人がコメントを述べた後、司会者の私は、無意識に隣の奥さんを飛ばして、次の人に回してしまった。すぐにご主人は、妻も何か言いたいことがありますかと、と言われ、ハッと我に返った。

「すみません、ついうっかりして」とコトバを繕ったが、これはうっかりではなく、私の意識の中に女性の存在の重みがかくも軽かったということだった。

た。心の中の有り様が、ついコトバに出てしまったのだ。人ごとではない。

デブリーフィングという単語がある。これは短く「デブリ」とも呼ばれる。辛い体験などを言葉にして誰かに聞いてもらい、無意識内容の意識化をするのである。元来軍隊用語として使われていたこの言葉は、前線から帰還した兵士に任務や戦況を質問し、報告させることを意味した。

「円了さん、この1カ月のデブリーフィングをお願いします」。毎月通っている行動科学研究所(大津市)でのやりとりである。その1カ月間の「気づき」を言葉にして述べる対話型観智の道場。内面に潜む自らの闇の部分と言

葉にする作業は、思うほど簡単ではない。

「ではその出来事から何を学びましたか、気づきはありましたか」。的確に放たれる問いかけが、偽善のよろいを壊し、内面にスポットがあてられる。うやむやだった意識が、いや、うやむやにしておきたかった内面がコトバによって輪郭がはっきりさせられる。

先生と私1対1で、1日かけて行われるこの学びの場に通い始めて今年で17年目、お陰さまで周期的に落ち込む自分自身を何とか奮い立たせている。

ちよっと油断をすれば自分の都合のいい方へ向かうのが人の常。コトバを発するまえに、元となる思いをチェックしてみよう。思いの問題があれば、たとえどのような表現をしようも相手を傷つけることになるから。

## 元となる思い点検を